

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【宮前小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	学習を振り返る経験はあるが、学び方は適切だったか、その時間の課題を達成するために自分の学習能力は満足するものか、達成できない際はどのような力が足りないのかという振り返りを実践できていない。 各教科部の組織構成(国語、社会、算数、理科)を行うとともに、宮前スタイルを共有していく。
思考・判断・表現	「学びのつながりを意識して、自分の考えを広げ深められる児童」を育成するために、教科横断的な視点を意識するとともに、「個別最適な学びの観点」並びに、「協働的な学び」の観点を教育課程の中に取り入れる。学びを振り返り、単に課題を解決するだけではなく、他者との関わりを通じ、自分の考えを広げたり深めたりできる児童の育成を目指す。

①	今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	・様々な形式で与えられている情報を正しく読み取り活用していく技能面に課題が見られる。 ・全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査国語・算数の「知識・技能」の自校結果を、前年度値より向上させる。	⇒	・個別最適な学びの観点を日々の授業に取り入れ、個に応じた支援を重視する。その過程で正しい知識・技能を児童に習得、活用させ、解決できたという達成感を実感させる。 【R7年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査国語・算数の「知識・技能」の自校結果を前年度値より向上させる】
思考・判断・表現	・複数の情報を課題に応じて適切に選択し、その情報を正しく関連付け活用する力に課題が見られる。また、事象等の表面上の変化に捉われ事象の本質を正確に把握していく力に課題が見られる。 ・全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査国語・算数の「思考・判断・表現」の自校結果を、前年度値より向上させる。	⇒	・協働的な学びの観点を日々の授業の中に取り入れる。課題を解決する際にグループ活動等を意欲的に取り入れる。他者の考えに触れ、多様なものの見方や考え方に触れ、よりよい考えを構築できるようにする。 【R7年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査国語・算数の「思考・判断・表現」の自校結果を前年度値より向上させる】

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	個別最適な学びの観点を日々の授業に取り入れ、個に応じた支援を行った結果、課題に対して「うまくいったのか、そうでないのか」という観点で学習を振り返ることができた。 令和6年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、令和5年度の自校の結果と比較し、国語6.7ポイント減少、算数3.7ポイント増加であった。 令和6年度さいたま市学習状況調査の「知識・技能」において、令和5年度の自校の結果と比較し、国語10.2ポイント増加、算数0.3ポイント増加であった。
思考・判断・表現	B	活動の観点を明確にした対話的な活動の場を設定し、授業に取り入れた結果、活動を通じて課題を解決し、対話的な活動の有用性を自覚している児童が多い。一方で対話的な活動を通じて一様の解決はできているが、自身の考えに満足できていない児童、または、解決はしたもののさらに改善の余地を自覚している児童もいる。令和6年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、令和5年度の自校の結果と比較し、国語2.3ポイント増加、算数4.0ポイント減少であった。 令和6年度さいたま市学習状況調査の「思考・判断・表現」において、令和5年度の自校の結果と比較し、国語5.1ポイント減少、算数1.7ポイント減少であった。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	令和6年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、令和5年度の自校の結果と比較し、国語6.7ポイント減少、算数3.7ポイント増加であった。 国語については、漢字の使い方や、物語のまとめなどを書くことに課題がある。漢字を文の中で正しく使うことや、言葉を書くことへの指導をすることが大切である。
思考・判断・表現	令和6年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、令和5年度の自校の結果と比較し、国語2.3ポイント増加、算数4.0ポイント減少であった。 算数については、立方体の体積を求める式を表すことや、折れ線グラフから数値を読み取り当てはまることを言葉で記述することに課題がある。必要な情報を読み取り言葉と数を用いて表すことへの指導が大切である。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	令和6年度さいたま市学習状況調査の「知識・技能」において、令和5年度の自校の結果と比較し、国語10.2ポイント増加、算数0.3ポイント増加であった。 国語については、言葉の特徴や使い方を理解し、主語と述語の関係を理解することができた。算数については、時刻の求め方を理解している様子がみられる。
思考・判断・表現	令和6年度さいたま市学習状況調査の「思考・判断・表現」において、令和5年度の自校の結果と比較し、国語5.1ポイント減少、算数1.7ポイント減少であった。 国語については、相互関係や心情を読み取ることや、話し手の意図をとらえて聞くことに課題がある。算数については、数量が変わっても割合は変わらないことへの理解に課題がある。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	変更なし	変更なし
思考・判断・表現	B	変更なし	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)